

# 會務報告

第 27 卷 第 1 號 昭和 16 年 1 月

## 役員會

### 第 18 同理事會 (昭. 15. 11. 25.)

出席者: 中村會長, 吉田副會長, 和田理事外 3 名,  
中村書記長外 1 名

#### 報告

#### 1. 東北支部開催の講演會及見學旅行記事

#### 議事

1. 防空に関する懇談會を 12 月 4 日(水曜日) 鐵道協會に於て開催し下記兩君の防空に関する講演並に防空委員會設置等別紙要綱(省略)に就き懇談することとせり。

會員 春 藤 眞 三君, 石川 榮 耀君

2. 華北政務委員會建設總署訪日技術官一行の歡迎會を開催することとせり。

3. 中部支部昭和 16 年度豫算を別紙(省略)の通り承認。

4. 東京帝國大學工學部附屬綜合試驗所へ土木學會誌を寄贈することとせり。

5. 入退會を別記の通り承認。

以上の外大陸に関する座談會, 名譽會員推薦等に関し懇談。

### 第 19 同理事會 (昭. 15. 12. 9.)

出席者: 谷口, 吉田兩副會長, 和田理事外 4 名, 中村書記長外 2 名

#### 報告

1. 北海道支部見學會及講演會の開催。

2. 日本工學會評議員會議事。

#### 議事

1. 中部支部長に田淵壽郎君再選せられたるに就き依囑。

2. コンクリート調査委員會委員に黒田靜夫君を追加依囑。

3. 昭和 16 年度役員詮衡委員の人選に關しては和田, 稻葉兩理事に於て原案を作成することとせり。

4. 土木賞牌は銀製品禁止に就き他の地金を以て製作することとし優秀論説報告の選定は編輯委員會に一任することとせり。

5. 昭和 16 年度收支豫算を別表(省略)の通り決定し常議員會に附議することとせり。

6. 昭和 15 年度收支追加豫算を別紙(省略)の通り決定し常議員會に附議。

7. 特定期間即ち昭和 16 年 1 月 1 日より昭和 16 年 12 月末日まで入會金を免除することに決定し總會に附議することとせり。

8. 通常總會を昭和 16 年 2 月 14 日に招集することとし議案を別紙(省略)の通り決定。

9. 水理公式調査委員會助手として伊良原武衛君を依囑。

10. 防空土木委員會を設置することとし次の要綱を決定し常議員會に附議することとせり。

#### 防空土木委員會要綱

1. 構成 委員長 1 名 委員 20 名 幹事 3 名

2. 期間 當分常置とす

3. 研究事項

(1) 防空土木の緊急對策並に其の實施方法

(2) 防空土木の恒久對策並に其の實施方法

(3) 防空土木の一般指導其他に關する研究

11. 大陸に關する研究懇談會の事業に就ては次回更に協議。

### 第 9 同常議員會 (昭. 15. 11. 25.)

出席者: 中村會長, 吉田副會長, 井關常議員外 9 名, 中村書記長外 1 名

#### 報告

1. 西部支部長に三瀬幸三郎君當選。

2. 關西支部昭和 16 年度豫算(別紙省略)を承認。

3. 北海道支部昭和 16 年度豫算(別紙省略)を承認。

4. 國民政府水利委員會委員長外 5 名を招待し歡迎午餐會開催。

5. 10 月入退會を別紙(省略)の通り承認。

#### 議事

1. 講演と映畫の夕を下記の通り開催することとせり。

日時 12 月 18 日

會場 蠶絲會館

講演 三國々道の話 { 森 經 義君  
水 山 嘉 徳君

映畫 A 朝鮮に於ける電力資源の開發 (5 卷), B 水禍天津 (2 卷), C 三國々道第一編(十六ミリ) (1 卷), D 嵐に花は散らず (8 卷)

2. 防空に関する懇談會を 12 月上旬開催することとし要綱其他に就ては理事會に一任。

3. 定款變更に關する議案は通常總會に提出することとせり。

## 總務部記事

### 防空に関する懇談會 (昭. 15. 12. 4.)

帝國鐵道協會に於て下記兩君の講演あり次で防空に

關する懇談をなせり。

1. 日本防空の一般的態勢に就て

會員 春 藤 眞 三君

2. 帝都防空の改造の一方策

會員 石 川 榮 雄君

出席者：中村會長，谷口，吉田兩副會長，和田理事外 5 名，岡田常議員外 1 名，中川前會長外 5 名，其他 24 名，中村書記長外 3 名

晚 餐 會 (昭 15. 12. 7.)

土木學會コンクリート調査委員會委員 (鐵筋コンクリート標準示方書改訂關係) 招待晚餐會

會 場：日比谷山水樓

出席者：大河戸，吉田兩委員長，安藝委員外 13 名  
谷口副會長，富永理事，中村書記長，小野寺庶務主任

### 編 輯 部 記 事

第 12 回會誌編輯委員會 (昭 15. 12. 4.)

出席者：廣瀬委員長，安藝委員外 5 名，  
左合編輯主任外 2 名

1. 第 26 卷第 12 號登載原稿謝禮を決定

2. 第 27 卷第 2 號登載原稿を次の如く決定

講演を登載可能なる場合

講 演：日本防空の一般的態勢に就て (會，春藤眞三)，帝都防空の改造の一方策 (會，石川榮雄)

論說報告：自旋式吊橋の二次應力に就て (准，平井敦)，擁壁に作用する地震時土壓の分布状態に關する實驗的研究 (會，松尾春雄)

講演を登載不可能なる場合

論說報告：自旋式吊橋の二次應力に就て (准，平井敦)，擁壁に作用する地震時土壓の分布状態に關する實驗的研究 (會，松尾春雄)  
土の突固め試験及びそれに基く施工難易度の判定及び施工規準の設定 (會，星坐和)

彙 報：白新線信濃川橋梁井筒工事に就て (會，淺原重壽，會，原口正一)，幹線街路に於ける水縮碎石基礎瀝青乳劑鋪裝 (會，長瀬新，會，志村一雄)

抄 錄：サイプラス島に於ける鐵鋼積出設備，工事用鋼索に就て，New Jersey 州保健局に依る河水淨化，避暑地の下水處理，香遮測深器を用いた潮汐及び波浪の測定，フロリダ州 Okeechobee 湖の堤防工事，杭の支持力に關する二つの實驗，杭床基礎の簡易計算法

3. 會誌體裁を商工省令により規格に統一することとなり第 27 卷第 1 號より従來のものに最も近き B5

號とすることに決定。

4. 學位論文審査報告は公表あり次第時報として登載することに決定。

### 調 査 部 記 事

コンクリート調査委員會 (第 28 回堰堤コンクリート小委員會) (昭 15. 11. 21.)

出席者：沼田委員長，内村委員外 7 名

協議事項

1. 第 40 條より第 52 條迄逐條審議

2. 以上の中第 42 條の試験方法，第 44 條 (2)，第 46 條 (1)，第 52 條 (1) は一先づ保留

コンクリート調査委員會 (第 2 回一般構造物コンクリート小委員會) (昭 15. 11. 26.)

出席者：沼田委員長，安藝委員外 7 名，磯崎君

協議事項

1. 黒田静夫君を委員に追加依頼。

2. 原案に就き第 5 條より第 13 條までを逐條審議。

コンクリート調査委員會 (第 29 回堰堤コンクリート小委員會) (昭 15. 11. 28.)

出席者：沼田委員長，内村委員外 13 名

協議事項

1. 第 1 條より第 53 條まで改正箇所を再讀せり。

2. 第 9 條表 -1 改正の上決定。

3. 第 13 條表 -2 次回に譲る。

4. 第 23 條を改正の上決定。

5. 第 28 條ミキサの容量 3 m<sup>3</sup> 以上の場合を除く。

6. 第 33 條材齡 72 時間はそのままとす。

7. 第 35 條 (4) 第 36 條，第 37 條はそのままとす。

8. 第 35 條 (1) の 30 cm は保留。

コンクリート調査委員會 (第 3 回一般構造物コンクリート小委員會) (昭 15. 12. 3.)

出席者：沼田委員長，安藝委員外 9 名，磯崎君

協議事項

1. 第 14 條より第 26 條までを逐條審議。

コンクリート調査委員會 (第 4 回一般構造物コンクリート調査委員會) (昭 15. 12. 10.)

出席者：沼田委員長，淺井委員外 11 名，芝地君，磯崎君

協議事項

1. 第 27 條種卸しより第 32 條打機目までを逐條審議。

杭の支持力公式調査委員會 (昭 15. 11. 29.)

出席者：青山委員長，匹田委員外 4 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 青山委員長より前回の小委員會に就いて報告。

2 當山委員より各種杭打公式につき、杭重及錘重を假定せる曲線の呈示あり。

3. 片平委員より、試験杭調査表集計とその附圖につき説明。

4. 次回まで試験杭調査表集計より、各委員在來公式を検討する事。

水理公式調査委員會 第三部會 (水道) (昭. 15. 11. 29.)

出席者: 廣瀬主査, 杉戸, 野中各委員, 本間幹事  
協議事項

1. 各委員提出の原案に就き、公式の取捨選擇を終る。

2. 上記公式に就き各委員分擔にて執筆する事。

上水道 鷹田, 田中兩委員

下水道 杉戸, 野中兩委員

水理公式調査委員會 (第4部會) (昭. 15. 12. 4.)

出席者: 鳥野主査, 松尾委員外 2 名, 安藝, 本間兩幹事, 佐藤部幹事

協議事項

1. 佐藤部幹事より前案の改良案を作製提出, 審議。

2. 採用公式を決定し, 解説要項を審議。

3. 次回までに部幹事に於て解説 (案) を作製すること。

4. 特に波力の計算法を以て一章となし, 松尾委員に於て案を作製すること。

### 東北支部記事

座談會 (昭. 15. 10. 5.)

會 場 秋田縣湯瀬溫泉

講演及視察見學

會 場 尾去澤鐵山共和會館

講演 土堰堤に就て 金森誠之君  
尾去澤鐵山の礦津に就て 山田喜代治君

見學 尾去澤鐵山坑内及鑛業堰堤

參加者 65 名

### 北海道支部記事

見學及座談會 (昭. 15. 10. 26.)

見學 函館地方

座談會 會場 函館五島軒

出席者: 17 名

講演會 (昭. 15. 11. 16.)

會 場 札幌々道集會所

講演 産業上より見たる南洋 菊地武直夫君

中支戦線より歸りて 久野陸夫君

映 畫 航空寫真測量 説明 宮崎長太郎君

出席者 186 名

### 中部支部記事

支部長改選の結果, 田淵壽郎君再選せられたり。

### 日本工學會記事

日本工學會評議員會 (昭. 15. 11. 27.)

議 事

1. 編輯委員の任期を2ヶ年とすること及職員手當に就き協議し, 外一般事務の報告ありたり。

### その他記事

土木學會誌第26卷第11號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

### 入會及轉格會員

(敬稱を略す)

#### 會 員 (入 會)

市村益夫 重松正人 高木季雄 永淵光次 長尾文雄 盛岡正義

#### 准 員 (入 會)

青山勉 宇佐美重健 上野薫 大久保守 岡本邦夫 興津史朗  
小塚繁 中西裕 申村三省 早川昌雄 丸山正夫 三木貞一  
吉田忠祐 有木四郎 飯田薫 梅井重光 大橋安太郎 岡村静三  
上城紀一 川口武壽 木谷俊二 桑村三吾 小屋繁雄 佐々木民藏  
鹽見一郎 陣内守三 萩原信治 原口不可士 平井浩清 藤本芳一  
眞野均 前田正紀 松下重行 松村彦一郎 盛藤久清 渡邊寅雄  
山内三藏

#### 學 生 員 (入 會)

有賀世治 飯島一 岩上政雄 宇都宮芳雄 王 延 藝 解 寶 珉  
郭 乃 立 祁 永 義 北山善三郎 金 鶴 善 金 恒 來 五 嶋 愈

江 眞 民 高 伯 文 近 藤 喜 平 車 明 植 周 連 俊 辛 起  
 徐 崇 貸 關 根 欣 善 藤 場 一 孫 江 安 種 子 濤 張 欽  
 董 富 海 馬 永 永 口 必 一 松 野 弘 經 田 賢 矢 部 郎  
 俞 多 昌 李 紹 紹 恒 增 谷 浦 英 男 森 一 郎

會 員 (轉 格)  
 會 員 (轉 格)

落 合 久 四 郎 眞 潤 隆 介  
 望 月 眞 平

土木學會々員數

(昭. 15. 11. 25. 現在)

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 587	5 054	1 370	103	26	10 140

會 員 小野榮作君，藤本爲美君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 池松清元君，小松新次郎君，村田勝次君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

## 會員轉居轉勤の場合の御注意

御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願ひ致します。

## 會費納付に就き御注意

會費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けますから旅行等にて御不在の場合でも拂込に支障なき様御配慮願ひます。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金を願ひます。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知を願ひます。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は遺憾ながら定款第 13 條に依り會誌の配布を停止せられることがあります。

## 會誌未着の場合の御注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏れなく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會願ひます。

發行後相當日數経過しての御申越は時に殘部皆無となり再配布不可能の場合があります。

# 土木學會誌第26卷 自第1號 至第12號 總目次

事 項	寄 稿 者 氏 名	號	頁
會 長 講 演			
時局と土木	會長 八 田 嘉 明	3	293
本邦土木事業の現況	會長 男 爵 中 村 謙 一	5	557
論 說 報 告			
土木衛生處理の一考察	會員 千 秋 邦 夫	1	1
エネルギー法による多張間高層ラーメンに対する固有振動週期 の實用算定法	會員 酒 井 忠 明	1	11
東京市に於ける高速鐵道の計畫に就て	會員 須之内 文 雄	1	37
四國中央電力大橋堰堤コンクリート配合に就て	會員 瀬 戸 角 馬	2	135
真直なる多格間或は中間剛支點を有する多徑間連續柱の捩屈 強度に關する計算理論並にそれが二、三の簡易計算法に就て	會員 金 俊 三	2	144
輻射三角測量の理論	准員 武 田 通 治	2	194
鐵筋コンクリート標準示方書の改正に就いて	土木學會コンクリート調査委員會	3	301
陸道内のコンクリート道床の設計	會員 工學博士 山 崎 匡 輔	3	313
不完全弾性構造用木材よりなる抗壓材の安定	會員 結 城 前 恭	3	347
静岡市大火觀察報告	會員 會 員 春 藤 眞 三 會 員 會 員 杉 戸 慶 次	4	413
相對 2 邊が單純支承他の 2 邊が自由なる矩形版の振動に就て 微分方程式に依る多張間高層ラーメンの振動解法並にその固有 振動週期の實用算定公式	會員 工學博士 井 口 鹿 象	4	427
軍馬の池土堰堤漏水系統の探査と其の對策	會員 酒 井 忠 明	4	441
固定梁の軸張力實用計算法	會員 篠 原 永 節	5	561
低溢流堰堤の流量係數 (第一編)	准員 櫻 井 豐 三	5	573
複心曲線の安全視距に就て	會員 本 間 仁	6	635
ポンプ浚深船の經濟的運轉特に中繼ポンプに就て	會員 淺 田 喜 久 男	6	647
天龍川上流改良工事の效果に就て	會員 工 藤 久 夫	7	715
度器のみによるトラバース測量法	會員 楠 仙 之 助	7	733
偏歪修正の諸問題	會員 安 東 功	8	781
ローゼ桁に關する方列論的考察	准員 武 田 通 治	8	785
低溢流堰堤の流量係數 (第二編)	准員 平 井 敦	8	799
機械的圖上計算法による基本三角網の迅速且つ嚴密なる調整計 算に就て	會員 本 間 仁	9	849
ローゼ系構造物に關する方列論的考察	會員 板 倉 忠 三	9	863
トラスの安定不安定の判別に就て	准員 平 井 敦	9	890
撓角撓度法による構造物の安定論 (其の一)	會員 工學博士 福 田 武 雄	10	919
基礎微分方程式を冪級數に展開して解き變斷面壓縮材の限界荷 重を求むる方法	會員 樋 浦 大 三	10	931
固定道床に於ける軌條支承體の彈性補給に就て	會員 横 田 周 平	10	959
最高強度コンクリートの製造に就いて	會員 會 員 庄 子 吉 光	10	970
軌條の撓みに就いて	會員 工學博士 吉 田 德 次 郎	11	997
撓角撓度法による構造物の安定論 (其の二)	會員 板 橋 三 郎	11	1007
接合鐵道橋の安全率に就て	會員 會 員 樋 浦 大 三	11	1018
乾燥砂層内垂直土壓に關する二、三の問題	會員 工學博士 田 中 豐	12	1099
スリッド・リブ・アーチの捩屈強度の計算法に就て	會員 會 員 眞 井 耕 象	12	1103
	會員 會 員 樋 浦 大 三	12	1116

# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

巻 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
6	—	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	—	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
19	*	*	*	—	*	*	—	*	*	*	—	*	1.00
20	—	—	*	—	—	—	—	*	—	—	—	*	1.00
21	—	—	*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
24	*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	—	—	1.00
25	—	*	—	—	*	—	*	—	*	*	*	*	1.00
26	—	*	—	*	—	—	—	—	—	—	*	*	
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)													1.80
大正十二年關東大地震被害調査報告書 (1, 2, 3)													18.00
鐵筋コンクリート標準示方書													1.20
同上解説													
土木工學論文抄録第一輯													3.50
土木工學論文抄録第二輯													5.00
土木學會誌索引 (第 1 巻第 1 號~第 20 巻第 12 號)													0.50
土木工學用語集													2.50 (會員に限り 1 割引)

上記残部會誌其の他の刊行物御希望の場合は所定金額を振替口座東京 16828 番にお拂込み下さい。

業 報

發電用馬蹄形水路断面計算法	會員	有坂誠喜	1	51
常磐線金山隧道内コンクリート道床改修工事に就て	會員	吉川宥直	2	217
京都市上水道原水取入問題と將來に對する考察	會員	山本與一郎	2	230
田端大橋取付道路工事概要	會員 准員	野原眞源	2	226
大阪の地盤沈下に就て	會員	工學博士 岡部三郎	3	355
凍土の耐荷力	會員	原田千三	3	359
獨逸國有鐵道建設及び運轉規程	准員 准員 准員 准員	入江一文 立花島武 市千服部博太郎	4	465
都市の防火水道に關する一研究	會員	木代嘉樹	5	597
白杵港棧橋用浮面製作工事概要	准員	佐田悦二	5	601
韓國土木事業調査並に道路工事施行の思出記	會員	片山貞松	6	659
隧道内の換氣に就て	會員	西畑常雄	6	661
線路作業員に對する智能並に特性検査報告	會員	石田武雄	6	674
西南大鐵橋(即黃沙鐵橋)建設に關する資料	准員	新居春一	7	745
北陸線葉原杉津間線路變狀に就て	准員	須知俊三	7	748
空中寫眞測量用基準點決定に關する經驗	准員	武田通治	8	828
特殊緩和曲線の數値表	會員	江藤禮	11	1062
ソ聯鐵道橋の衝擊係數	會員	原田千三	12	1136
實施試驗中の並枕木產生方法に就て	會員	高田禎次	12	1153
京城の都市清掃と處分問題	會員	稻垣恭一郎	12	1158
開水路の流量計算に就て	會員	隱塚延次郎	12	1161

抄 録

應用力學

最大垂矢力が與へられた場合にケーブルの				
水平引張力を簡単に求める方法	1	75		
屋根に及ぼす風壓	2	235		
地盤の壓力分布	4	511		
モーメント分布に依る面渠の簡易設計	5	609		
一般土楔論	6	687		
鉅結鈹桁の有効慣性モーメント	7	759		
矩形断面上に偏心荷重のかゝる場合の應力				
公式	9	903		
弾性の non-linear 理論と初期應力を受け				
た物體に對しての Linear な場合	10	978		
新土質試驗方法	10	978		
吊橋の變形を考慮に入れたる場合の自重、				
交通荷重及過度變化に依る應力の相互影響	10	981		
軸方向の引張りに依り棒の振り剛さの大き				
くなる事	10	983		
弾性固定端部材の撓屈理論	11	1068		
摩擦なき半徑方向のピンに依り支へられた				
圓環の應力	12	1172		
變形傳播の原則	12	1173		
振りを受ける骨組のモーメント配分法	12	1175		
有鉸結構の應力算定に就いて	12	1176		
偏心軸荷重を受ける矩形断面の寸法決定法	12	1177		
水 理				
水門流出水の理論的並に實驗的研究	1	76		
地下水流量の新公式	1	77		
圓堰と其の流量係數	2	236		
橋脚の間の流れ	2	238		
断面積の變化する壓力管内の水衝作用	2	239		
流體の瞬間壓力の記録裝置	3	513		
渦流の統計的理論と水理學の關係	3	514		
跳水現象に就て	3	515		
有潮水域へ流出する水の問題	5	610		
衝力論に依りて計算したる廣頂堰の流量				
に就て	5	611		
土砂輸送管内の Rifling の影響	5	613		
模型試驗に依る流出係數の測定	6	690		
流水中に於ける砂礫の運動の觀測	6	692		
滑かな壁面を持つた開渠内の射流	7	762		
開渠の流れに對する Boussinesq の理論の				
擴張	7	763		
ローリングダムの前後に於ける水流の實驗	7	764		



1	深い海洋に於ける潮汐	8	834
1	開水路の入口の流れ	9	904
1	断面の近所及び管内渦流の流速分布	9	904
1	閘水門の水理模型実験	9	906
1	障害物のある水路内の流線の問題	9	907
1	感潮水路の計算	10	983
1	最小エネルギーと最大流量の聯立の定理	10	984
1	溢流堰断面に就ての模型実験	11	1073
1	圓形小流出口の流量係數	11	1074
1	Hele-Shaw 氏の装置を利用せる地下水の 1 1 実験	11	1075
1	粗なる管内の流れ	11	1077
1	非常に細い管を流れる粘性流體の不定流	11	1078
1	滑らかなる平行境壁間及び滑らかなる管内 1 1 の流れ	11	1079
4	渦流に関する相似性理論の環狀断面の管に 5 沿ふての流れに對する應用	12	1178
18	運動量輸送の理論の環狀断面の管に沿ふて 28 流れる渦流に對する應用に就て	12	1179
32	渦動度輸送の理論の環狀断面の管に沿ふて 36 流れる渦流に對する應用	12	1180
53	材 料		
58	新光學的應力測定器	1	79
61	特殊ポルトランドセメント	1	79
	木材の不均等収縮	1	81
	木材断面周縁部分の強度に及ぼす影響に就 1 1 して	1	83
175	理論及實驗より導いた鑄鐵管厚の新計算法	2	240
176	コンクリートの透水試験方法に關する研究	2	245
177	デュベルを入れた木材合成桁の實驗	3	370
	ソ聯のブツラン・セメントに關する研究	7	765
76	ポルトランド、鑄滓及高爐セメントに關する		
77	7 767 獨逸標準規格の改正		
236	土と石の空隙率に就て	8	834
238	コンクリート及鐵筋コンクリート		
239	破碎白雲石を用ひた振動コンクリート	1	84
513	鐵筋コンクリート梁に於ける斜肋筋の熔接	1	86
514	鐵筋コンクリート鉸及搖承に關する一實驗	1	89
515	コンクリートのクランプに依り吊桁及繫拱 610 に於ける水平引張力變化に及ぼす繫材歪 並に壓縮弾剛性の影響に就て	4	517
611	三方向に偏心荷重を受けたる鐵筋コンクリ 613 ート矩形断面に就て	4	519
690	高温時に於けるコンクリート工事に鑄土セ 692 メントの使用	8	885
769	中心距離が僅少な鐵筋コンクリートの壓力 770 断面の計算	8	836
768	國コンクリート調査聯合委員會「コンク 764 リート及び鐵筋コンクリート標準示方書		

	の改正に就て	11	1082
	發電水力		
	風力發電に就て	1	90
	堰 堤		
	基礎破壊による Fort Peck Dam の大滑動	1	91
	Mississippi 下流に於ける最初の洪水調節堰 堤	1	93
	Friant 堰堤の特殊設計	3	380
	堰堤の高水溢流の際に沈下堰の降下により、 形成される流出波	3	381
	460' 塔による Shasta Dam のケーブル工法	3	383
	沈澱池模型実験	4	525
	堰堤のゴム製水止	6	609
	堰堤設計の際の貯水の問題	10	984
	港 灣		
	開室建設に就ての問題	1	95
	Southampton 港乾船渠に於ける扉の改造	2	258
	模型實驗に依る港湾問題の解決	3	387
	Azoren 群島の防波突堤	4	528
	隧 道		
	New York 市 East River の新自動車隧道	5	623
	Rotterdam マーシュ河底隧道工事	7	771
	Brooklyn-Battery 水底トンネル	9	913
	土木一般		
	懸垂線問題解決に關する公式	8	833
	都市計畫		
	Hermann-Goring 工業都市	5	621
	下 水 道		
	人孔と接合室	4	526
	空爆に對する下水道保護	5	616
	下水道維持	8	837
	下水處理場操作に及ぼす Cannery Wastes の影響	10	986
	Package Delivery 工場廢水用淨化装置	10	988
	促進汚泥法に依る酪農場廢水の處理	10	989
	窒素處理の問題と進歩	11	1086
	促進汚泥法に於ける溫度並に促進汚泥濃度 の影響	11	1087
	Baltimore に於ける急速撒水濾床の實驗	12	1182
	上 水 道		
	各種材質の配水管の得失	3	384
	管井のスクリーン	3	385
	細菌、腐蝕及赤い水	3	386
	ガナイトに依る配水用貯水池の法面保護	5	615
	二重甲板の沈澱池	10	985
	測 量		
	米國に於ける寫眞測定の現況	3	369
	鐵 道		
	歐洲最長の管化鐵道完成す	1	97

San Francisco-Oakland 橋梁の信號及聯動裝置	1	99	道路標識の確認試験	9	913
グラウトバラマツによる路盤強化	3	394	航空港設計の基本要件	11	1090
橋梁及構造物			Pennsylvania 高速道路の設計資料	12	1184
劃期的な木製拱架	1	102	施 工		
ドイツに於ける熔接鋼橋の事故に就て	1	103	化學製品を用ふるグラウチングに就て	2	246
一般 Vierendeel 橋の近似解法	2	259	浮動式コッフアーダムを使用せる橋脚基礎	2	248
吊橋に關する知識の發達	3	390	掘鑿に際し地下埋設物豫知法	2	249
コンクリート浮橋の設計と施工	3	391	Hansen Dam に於ける新土運搬設備	2	249
Columbia 河橋梁の記録的木製構	3	392	Whitestone Bridge に使用せる深設潛函工	3	373
高さの變化する板桁に於ける撓度に就て	3	393	四橋脚の補強工事	3	375
Washington 州 Yakima 郡に於けるボックスガダ橋	6	703	沼澤地埋立により建設される航空港	4	521
Pit 川橋梁の設計	6	705	不安定なる地盤上の基礎に對する一提案	4	523
炭化水素の水壓式タンク (Miozzi 式)	7	771	橋脚基礎に利用した鋼製圓筒管	4	524
橋脚の彈性係数の測定及び基礎の試験	8	838	Chickamauga 堰堤地點の大試験	5	613
基礎の埋込の深い橋脚の新設計	8	840	南 California に於ける災害復舊工事	6	693
溪谷に架設される鋼道路橋の鐵筋コンクリート床版に就て	8	841	吸収性型枠に依るコンクリートの表面堅硬化	6	695
容量大なる高配水々槽	8	842	競技場盛土の土質試験	7	768
豫應力を與へた獨逸の 108 呎桁橋	10	990	長さの異なる杭を用ひたる杭打基礎の設計	11	1083
變斷面板桁の變形量計算	11	1091	熔 接		
鐵筋コンクリート揮發油槽	12	1185	Dessau 附近ドイツ國有自動車道に架せる熔接鋼拱橋	2	251
長徑間自己支持サイホン	12	1186	Rotterdam の Ijsselmonde 換車場の上に架設せる熔接橋	2	253
簡単な函渠の設計	12	1188	熔接継目の熱應力及び其の疲勞限度に及ぼす影響に就て	11	1084
長徑間鐵筋コンクリート格納庫	12	1188	河 川		
道 路			Mississippi 河洪水調節の歴史	2	254
米國に於ける有料制高速道路	1	106	水路屈曲部に於ける水流と砂澱の移動	2	256
道路工事用機械に於ける革新	1	108	O'shaughnessy 堰堤の嵩上	2	256
コンクリート鋪裝版の龜裂	3	388	世界最大の輓壓土堰堤	2	257
路面下埋設物の整理	3	389	Mississippi 河掘水路の效果	3	377
鋪裝用アスファルト乳劑の特色及性質 (I)	4	529	Elbe-Havel 運河	3	378
瀝青鋪裝及小鋪石鋪裝の爲のコンクリート基盤	4	530	Elbe 河改良工事	6	697
道路建設の將來	4	531	スイスに於ける洪水量と流域面積との關係	9	908
道路交叉點に於ける中央分離帶	5	617	ソ聯の水路	9	909
Lowry Field 工事に於けるコンクリート滑走路鋪裝	5	620	St. Louis に於ける大暴風雨の研究	9	911
クロソイド曲線による緩和曲線布設法	6	701	雜		
米國自動車道路網の計畫に就て	7	768	Tennessee Valley Authority の機構	2	263
1939 年のコンクリート鋪裝界	7	769	颱風構造の變遷	2	264
			二次常微分方程式積分器	4	532
時			報		
京濱運河開鑿工事起工式	1	111	奥入瀬川水系發電計畫並に十和田發電所地鎮祭狀況	1	116
常盤水力發電所起工式	1	111	細島港修築工事竣功	1	117
兼山水力發電所起工式	1	112	日ノ影線全通	1	118
鹿兒島港修築計畫概要	1	113	女川線開通	1	118
岡山飛行場起工式	1	114	港湾協會第 12 回通常總會	1	119
大師橋竣功式	1	115			

都市計畫關係決定事項 (10, 11 月分)	1	120
日本道路技術協會記事	1	121
オイルコンクリート示方書	2	267
全國都市問題會議第 7 回總會	2	267
荒川改修計畫概要	2	267
東京府十間橋竣工	2	269
昭和 15 年度東京府土木豫算	2	270
都市計畫關係決定事項 (12 月分)	2	273
岡田港の竣工	3	397
静岡市の大火と鐵道の被害概況	3	398
鐵道省熔接講習會	3	399
都市計畫關係決定事項 (1 月分)	3	400
鐵道省關門聯絡線工事施行會議	4	537
滿洲土木研究會第 5 回土木講習會開催	4	537
八戸港修築計畫概要	4	538

土地區劃整理事務技術研究會	4	
都市計畫關係決定事項 (2 月分)	4	539
都市計畫關係決定事項府縣別一覽	4	541
鐵道改良技術會	5	625
東京府多摩川橋竣工	5	625
東京府綾瀨川橋梁起工	5	626
都市計畫關係決定事項 (3 月分)	5	6
鐵道省第一回土木講演會	6	707
第八回全國土地區劃整理事業者大會	6	707
都市計畫關係決定事項 (4 月分)	6	708
大阪市第 1 期下水處理事業完成	7	773
東京府神田上水改修工事竣功式舉行	7	773
東京府目黒川改修及附帶壘立工事竣功	7	773
都市計畫關係決定事項 (5 月分)	7	774

特 許 紹 介

潜函底部に於ける擴大基礎版の築造方法	1	129
地下龜裂等の壓力充塞方法	1	129
鐵骨の地下階を有する建築物の築造方法	1	129
自動抗打機組の給排氣弁裝置	1	130
衝撃振壓機	1	130
地下室又は潜函等の構築物下降方法	1	130
鑿岩機	1	130
シールド使用隧道構築方法の改良	1	130
地下建造物沈下方法	2	287
水中コンクリート防水施工法	2	287
コンクリート構築物の補強材配置方法	2	287
鑽孔に依り貫通せらるゝ地層の傾斜の方位 及角度を決定する裝置	2	287
結合せる叢集並に沈澱裝置	2	288
坑の掘鑿裝置	2	288
堰堤舟筏路制御裝置	2	288
耐酸槽又は塔の築造法	2	288
角落し制水扉昇降裝置	2	288
螺旋狀鑄付コンクリート杭の築造裝置	2	289
セメントの硬化液製造方法	2	289
セメントを凝結劑とせる建築資材製造方法	2	289
採鑛方法	2	289
枝杭を有するコンクリート杭構築方法	2	290
セメント管池中製造法	3	409
螺旋杭の捻込沈下法	3	409
基礎工事の改良	3	409
沈澱叢集裝置	3	409
コンクリート重力堰堤の築造方法	3	410
壓氣及打撃併用凹凸杭築造方法	3	410
爆震式鑿岩機	3	410
振動運動の發生裝置	4	551
堤壁を有する防波堤の加き構築物の防壁	4	551

軌條の熔接々手	4	551
道路振壓機	4	551
錐形コンクリート杭築造用外管	4	552
試錐杭測定裝置	4	552
水硬性結合材の製法	4	552
セメント急強劑	4	552
技管接綴用突起形成型	4	552
合成杭埋築方法の改良	4	552
潜函工法による船渠築造法	4	553
谷積用間知石代用コンクリートブロック	5	629
低地改良裝置	5	629
踏切遮斷杆自動開閉裝置	5	629
コンクリート用竹筋	5	629
込式管接手の改良	5	629
多段變速試錐裝置	5	630
内燃機關による鑿岩機	5	630
洗砂池等の排砂裝置	5	630
コンクリート基礎杭の構成法	5	630
コンクリート基礎杭の構成法	5	630
セメント防水劑製造法	5	631
鐵管接綴方法	5	631
雪を構築物の材料として使用する方法	5	631
コンクリート假枠との接着を防止する藥劑 の製造法	6	771
地下探査用電磁的高倍率變位微動計	6	771
地下埋設物の防蝕法	6	711
淨水裝置	6	711
軌道用自備列車速度記錄裝置	6	711
淨水機	6	711
セメント井戸側構成法	6	712
竹を應用せるコンクリート用筋材の製造法	6	712
電磁的流注測定方法	6	712

井筒壓入方法	7	777	濾水管を中間部に連結したる井側管の埋設	10	992
淨水装置	7	777	法	10	902
水道栓	7	777	軌條の接續装置	10	993
液體淨化用濾砂洗滌装置	7	777	消化汚泥乾燥装置	10	993
コンクリート筒遠心製造装置	7	777	セメントモルタル急硬防水劑の製造法	10	993
セメントを使用する可塑物體の製造法	7	778	隧道掘鑿作業方法の改良	10	993
管端の接合装置	8	845	モルタル床面自動均成機	10	993
建築物の潜函方法	8	845	道路鋪裝材料	11	1094
射出水の水勢減殺装置	8	845	セメント急硬防水劑製造法	11	1094
コンクリート用埋込子	8	845	補強コンクリート構造	11	1094
土留工	8	845	セメント製品補強用材の製造方法	11	1094
彎曲屋根構成法	8	846	崖地の崩壊を防止する方法	11	1094
橋梁構築方法	8	846	運動場構成法	11	1094
コンクリート假枠締付方法	8	846	〃 〃	〃	〃
コンクリート堰枠緊結装置	8	846	可塑成型物の製造法	11	1094
基礎井筒沈下方法の改良	8	846	水素に依る岩石其他の爆破方法	12	1190
セメント攪成方法	9	915	地下室又は潜函等の構築物下降方法	12	1190
淨化装置	9	915	コンクリート管製造装置	12	1190
制震性耐震構造	9	915	コンクリート、モルタル製品の製造法	12	1190
混合ポルトランドセメント	9	915	掘深掘速及び層厚測定試験機	12	1190
建造物沈下工法に於ける土砂搬出装置	9	915	コンクリート用鐵線製筋	12	1190
鐵筋コンクリート建築物の梁を山留用張木			爆發式衝擊工具	12	1190
に置換へたる山留工法	9	916	曲線測量計算尺	12	1190
内燃鑿岩機	9	916	可動堰釣揚装置	12	1190
コンクリート混合装置	10	992	打込に依る坑井掘鑿方法	12	1191
折込伸長式架橋兼階梯装置	10	992			

---

昭和15年12月25日印刷 昭和16年1月1日發行 (定價金1圓)

編輯兼發行者 東京市牛込區南町33番地  
中 村 孫 一

印刷者 東京市神田區美土代町16番地  
島 連 太 郎

印刷所 東京市神田區美土代町16番地  
三 秀 舍

---

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 土 木 學 會  
法 人

電話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

## 圖書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから、御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時 自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時  
自1月4日至7月20日

但し 日曜及祭日は休み

## 圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致してあります。又本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介致して居りますから、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種 洋白地金文字浮出し
3. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



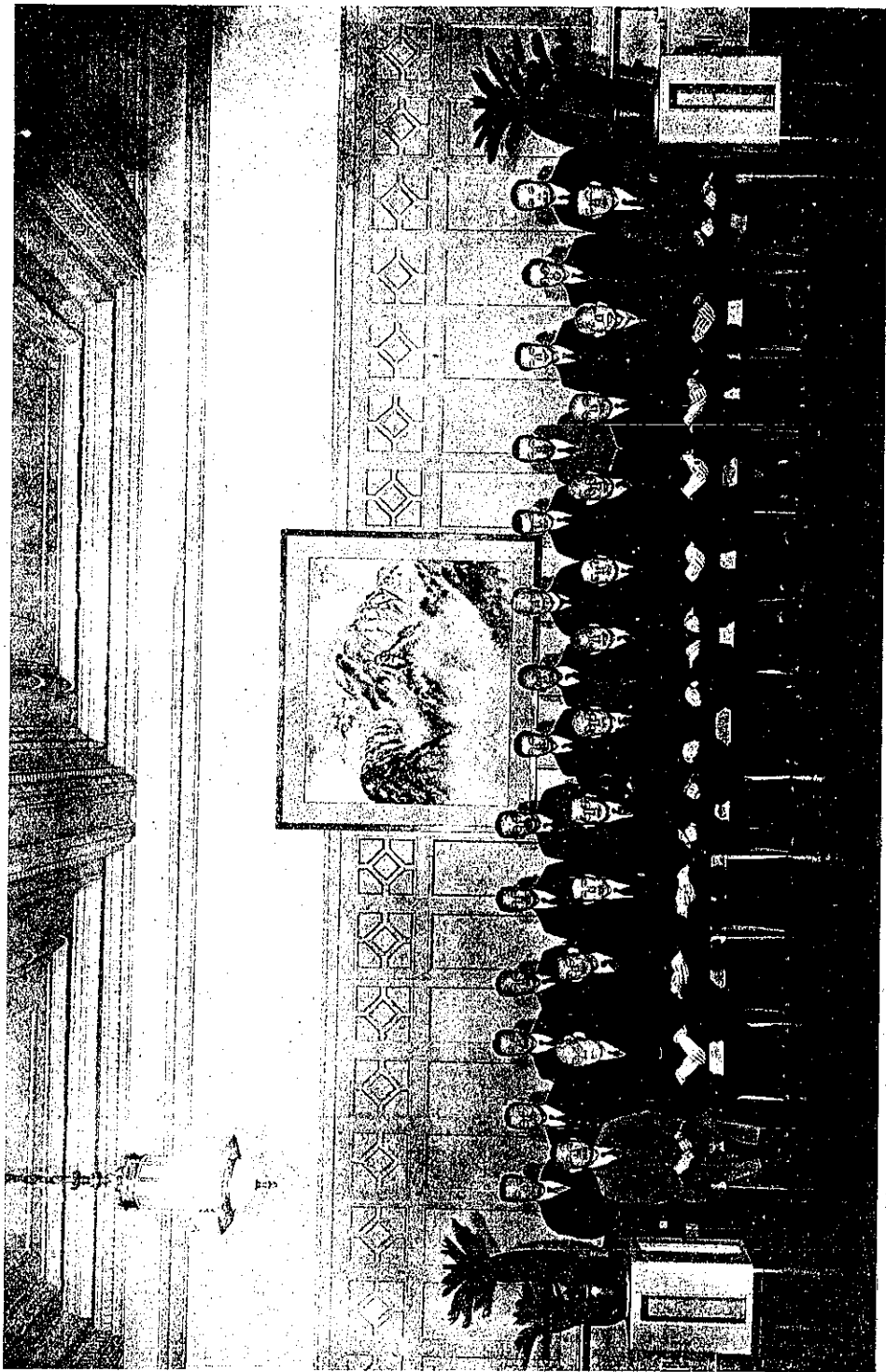
(實物大)

## 寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁數 頁數は本會の本會誌 15 頁 (原稿用誌 90 枚) 以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文體 文體は文章的口語體とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書體 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $u$ ,  $u$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $\alpha$ ,  $r$  と  $\gamma$ ,  $d$  と  $\delta$ , その他  $C$  と  $c$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。例へば  
35 錢 (三十五錢), 13.56 圓 (十三圓五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),  
88 326 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 14. 1. 1. (昭和十四年一月一日),  
m (米),  $m^3$  (立方米), kg (珔), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
  6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し (本會制定用語は本會發行の土木工學用語集參照)。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 圖表 (1) 圖表は圖-1, 表-1 等と書き圖表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。  
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。  
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ (黄色、赤色の野は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 圖表の文字數, 字は特に大きく書かれ度し, 縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2 mm 程度となる様され度し。  
(7) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
  8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。  
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論說報告, 彙報, 時報, 抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。  
(2) 講演, 論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

# 國民政府水利委員會歡迎午餐會

(昭. 15. 11. 14. 於東京鐵道ホテル)



後列左より朝倉、小野寺、小川、春藤、松本、鈴木、青山、那波、丹羽、大河戸、富永、金子、瀧尾、藤本の諸君  
前列左より匹田、中川、吉田、中川、吉田、楊、秘書、楊、委員長、張、工務處長、朱、委員、加賀山、谷口、各井、和田の諸君



# 竣功せる敷島橋 (其の1)

架橋位置： 東京府南多摩郡浅川町上栢田，横山村下長房入會南浅川に架す

路線名： 府縣道第 244 號 覆生浅川線

型式： ラティス型木構橋

橋長： 19.60 m

有効幅員： 4.50 m

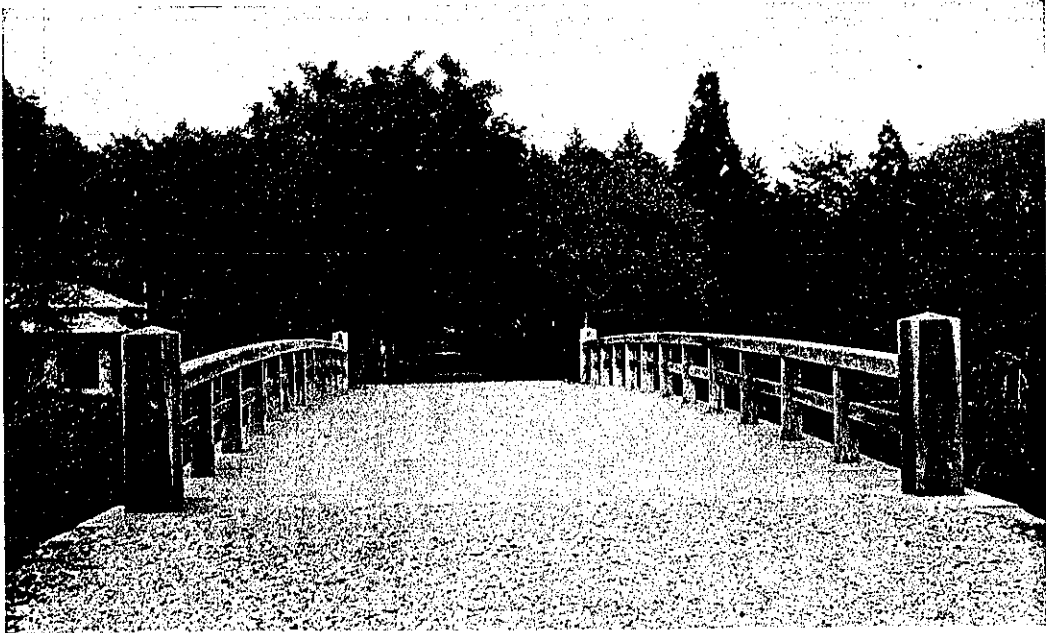
橋面積： 88.20 m

設計荷重： 内務省洞道路橋設計示方書案 9t 自動車

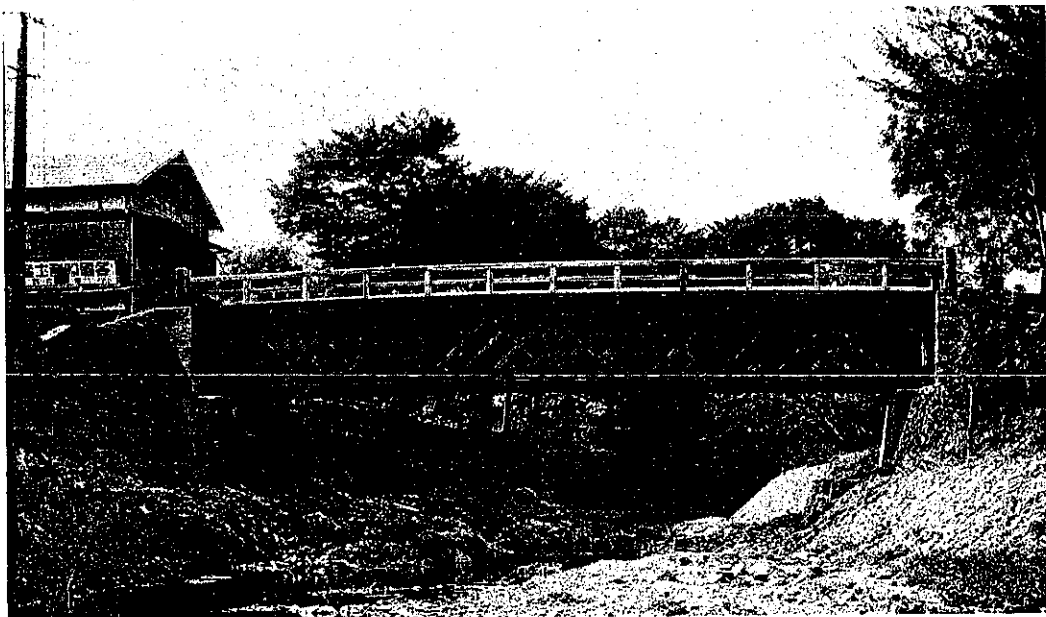
工費： 10812 圓

施行： 東京府

右岸8號國道側より望む

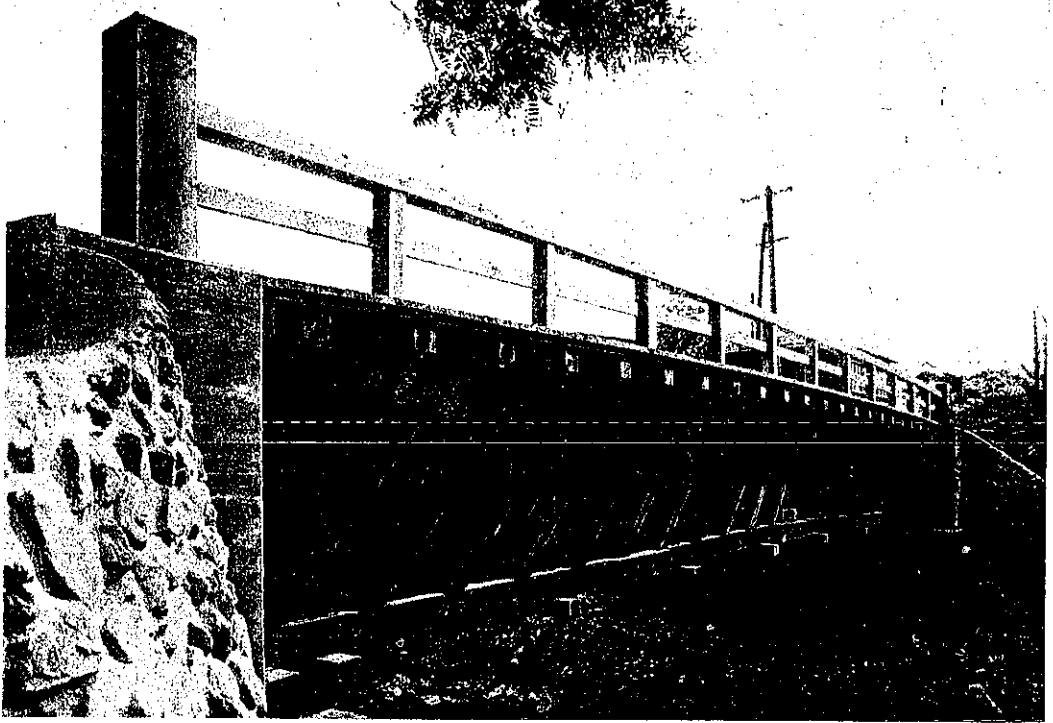


下流側より上流を望む



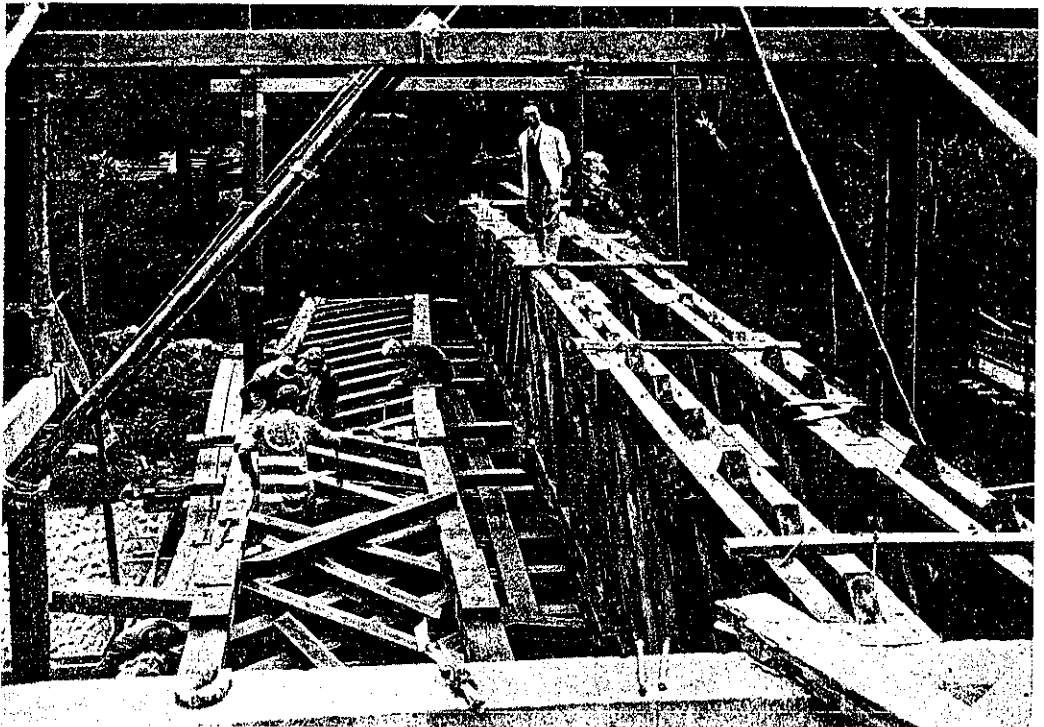
## 竣功せる敷島橋 (其の2)

左岸上流より望む



### 構桁の架設中

写真の如く支保工上にて横にしたるまゝ組立て、寫眞前面及後部に立てた木製鳥居にチェーンブロックを吊して構桁を起せり。尙構桁1連の重量は約5tなり。



## 圖書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから、御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時  
自1月4日至7月20日

但し 日曜及祭日は休み

## 圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致してあります。又本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介致して居りますから、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種 洋白地金文字浮出し
3. 管費 金 50 錢 (郵送の場合は外に寄留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(價 壹 六)

## 寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁数 頁数は本會の本會誌 15 頁 (原稿用紙 20 枚) 以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文體 文體は文章詩の語體とす。本文に重要な関係のない前段、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書體 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $v$ ,  $u$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $e$ ,  $r$  と  $γ$ ,  $d$  と  $δ$ , その他  $O$  と  $o$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 漢字名數 數字は 3 桁毎に閉路をかける漢字名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。  
例へば  
35 錢 (三十五錢), 13.56 圓 (十三圓五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),  
88326 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 14. 1. 1. (昭和十四年一月一日),  
m (米), m<sup>3</sup> (立方米), kg (斤), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
  6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し (本會制定用語は本會發行の土木工學用語集参照)。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 圖表 (1) 圖表は圖-1, 表-1 等と書き圖表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。  
(3) 圖面はその縮寫し得る様にトレーシングペーパー, オイルペーパー, トレーシングクロス等とすること。  
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ (黄色, 赤色の罫は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 圖表の文字數, 字は特に大きく書かれ度し, 縮寫の標準は 1/2~1/3 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2 mm 程度となる様され度し。  
(7) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
  8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 文の位 (1) 論議報告は論文に限る。  
(2) 講演及論議報告には必ず英文要綱及邦文要綱並に審査の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論議報告, 彙報, 時報, 抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。  
(2) 講演, 論議報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上贈呈の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

# DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXVII, NO. 1, JANUARY 1941.

## CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society .....	1
<b>Papers</b>	
Slip Surface in Landslide. <i>By Zennosuke Anzō, Dr. Eng., Member.</i> .....	1
On Bending of Wire Rope Cable in Suspension Bridge. <i>By Tosizō Kon, C. E., Member.</i> .....	9
Researches on the Movement of the Sand of the River Bed of the Ryōga. <i>By Syōsitarō Nagai, C. E., Assoc. Member.</i> .....	20
Notes on Matters of Interest .....	44
Abstracts of Selected Articles .....	57
Patent News .....	78
New Publications .....	80

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十五年十二月二十五日印刷  
昭和十六年一月一日發行  
（每月一期）  
土木學會誌 第二十七卷